

F-25 家庭経営の変動に関する生活史的研究(K)

— 福島県郡山市湖南町調査を例として — 食生活の変遷について (I)
郡山女大家政 足利千枝 外 3 名 会津短大 佐原 昊 。 青木 宜子

目的 社会の変動に伴い家庭の「食」生活がうつり変ってきた一例として、摂取食品及び調理用具の変遷、食事状態について調査した。

方法 摂取食品調査の対象、時期、方法は家庭経営調査と同様であり、用具、食事状態は同地区において昭和47年12月に調査を実施した。

結果 (1) 使用食品の変遷については自給から購入への移行、洋風化の指標となる食品33種を取り上げた。マヨネーズ・油類は戦後購入がのびており、洋野菜のレタス・カリフラワーは栽培がのび両地区共自給が多い。これら食品の流通をみると魚・肉類等の生鮮食品は郡山方面、野菜類は会津方面から入っている。(2) 調理用具の変遷について鍋・電気器具等をみると住宅の増改築等によりイロリ・クドが姿を消し燃料も枯木・スカからガス・電気という変遷に伴って羽釜・つる鍋は減少しアルマイト・両片手鍋が両地区共に増加している。冷蔵庫、電気釜は福良地区が高い普及率を示している。(3) 食生活の実態について食事様式は大正から昭和30年の間に変化している。両地区の食事内容を調理手法別にみると大半が汁物、漬物、直用食物で一日の調理回数は福良2.8回、月形3.9回で調理には時間をかけていないことがわかる。様式別には両地区共和風料理が90%以上を占めている。以上この地区の近代化は都会と比べて遅れているが、現金の必要性が強くなった為に消費に対する意識の重要性が認識されている。